

# 地球を潜る！宮古島



宮古島・南海岸「七又アーチ」

## MIYAKO GEOGRAPHIC

世界中のダイバーたちに、<sup>ジオグラフィック（地形）</sup>“Geographic”な海として知られる、宮古島。“Geo-”はギリシャ語の“地球”に由来。サンゴが隆起し大地を作り、海が大地を削って造り上げた宮古島の地形は、まさに地球を感じるダイビング。シーズンインの宮古島で、地球を潜る！

撮影／越智隆治 構成・文／寺山英樹 デザイン／中村孝子 協力／宮古島ダイビング事業組合、JTA



### 宮古島の王道 「アントニオガウディ」の芸術

宮古島を代表するポイント「アントニオガウディ」へ飛び込み、水面から水中をのぞきこむと、澄み渡る海の前に見えるのは、地球のダイナミズムを感じさせる迫力ある地形。潜降し、メインホールへ向かって水深を落としていくと、水底には、鋭角な切り込みが走り、奇岩が折り重なっていて、海底遺跡を思わせる。

やがて、水深 20 m 付近の、地球にぽっかりと口を開けたホール入口へ進入し、水深 30 m オーパーの水底からメインホールを見上げてみる。6 つのブルーのグラデーションが美しく幻想的だが、見方を変えると笑った顔にも見えてどこかユーモアもあり、複雑に入り組みつつも調和が保たれた独創的な世界が広がっている。

**アントニオガウディ**  
スペインの建築家・アントニオガウディがそのままポイント名になった、宮古島を代表する地形ポイント



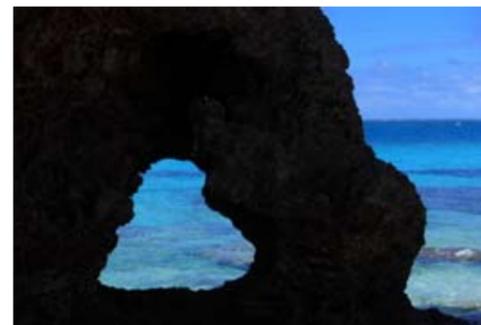
#### 七又アーチ

透明度が高く大物も期待できる宮古島の南海岸だが、風の影響を受けやすく潜る機会も少ないプレミアムな海。断崖絶壁の海岸線でもひと際目につく基地のような岸壁の下を潜ると「七又アーチ」と呼ばれる巨大神殿が現れる

自然を賛美し、“独創の傑作”と讃えられる作品群を残したスペインの建築家アントニオガウディが見たらなんと言うだろうか。

サンゴが隆起してできた宮古島は、浸食されやすい石灰岩のため独特な造形を生み出し、世界屈指の“地形”の海としてあまりにも有名。また、島自体が濾過装置の役割を担っているため、沖縄屈指の透明度を誇っている。

「アントニオガウディ」はひとつの象徴だが、宮古島、下地島（しもじしま）、伊良部島（いらぶじま）周辺には世界屈指の地形ポイントが集中し、バリエーションも豊富。ポイントの数だけ、名前に込められたストーリー、光と地形の演出がある。



サンゴが隆起してできた宮古島。海岸線では、長い年月を風雨に削られ生まれた自然のアートが多く見られる

#### 魔王の宮殿

水底にぽっかり空いた穴に進入し、狭い通路を抜けていくと、大広間が広がっている。縦穴から差し込む強烈なスポットライトを浴びれば自分が主役！



## 地球を潜る！宮古島

# 地球のヘソを潜る！



## 摩訶不思議な2色の海 世界最大のケーブ 「通り池」の神秘

下地島には多くの地形ポイントが集中するが、ひと際、異彩を放っているのが「通り池」。

レジャーダイビングで潜れるケーブでは世界最大といわれるが、そんなスゴイことがかすんでしまうほど、このポイントはストーリーとシーンが独特だ。

下地島の大地にぽっかりと大小の穴があいて池となり、水中でつながっているばかりか、なぜか海とも横穴でつながっている、地球の悪戯が生んだ不思議なポイント。ダイバーは横穴に潜って、文字通り「通り」抜けることができるというわけだ。

“地球の悪戯”ではなく、捕えられたジュゴンが海に助けを求めて津波を引き起こし

てできた、というユナイタマ(ジュゴン)伝説や、いわゆる“口減らし”のために子供を突き落して……なんていう継子伝説など、シリアスな伝説も残っているためか、中には“出る”なんていう靈感の強いダイバーも……。こうした伝説を知って潜るダイビングもまた違った趣があっておもしろいかも!?

そんな噂はさておき、何より素晴らしいのは、「通り池」でしか見られない唯一無二のシーン。水温や比重の異なる淡水と海水が混じり合っているため、サーモクラインという水の層が生まれ、ユラユラとまるで蜃気楼のよう。

さらに、光の入り方によって、ブルーとグリーン、時にはイエローやグレーの色が見られる幻想的な世界。その伝説や噂も相まって、摩訶不思議、妖しくも魅力的なポイントなのである。

見上げると蜃気楼の中にブルーとグリーンがユラユラ揺れる幻想的な世界が……



池で浮上すると、池の上から観光客がこちらをジ〜。観光客にとっては浮いてくるダイバーも観光のひとつ!?



「通り池」を上から見ると、大地にぽっかり口をあけた、まさに「地球のヘソ」

## 地球を潜る！**宮古島**



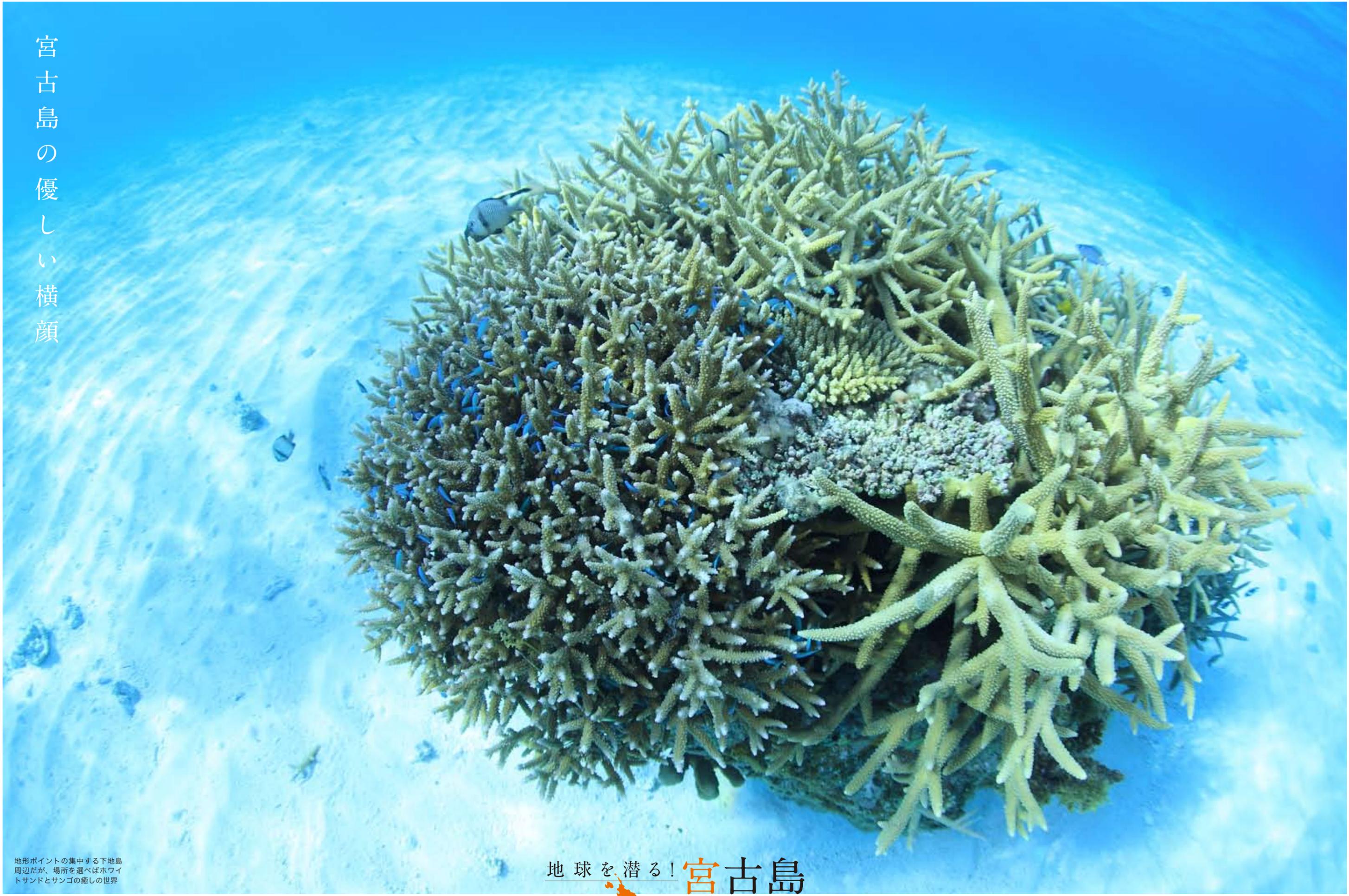
©ocean+ alpha ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link  
[http://oceana.ne.jp/series/201310\\_miyako](http://oceana.ne.jp/series/201310_miyako)

関連情報HPへ

宮古島の優しい横顔



地形ポイントの集中する下地島  
周辺だが、場所を選べばホワイト  
トサンドとサンゴの癒しの世界

地球を潜る！**宮古島**



伊良部島にある下地島空港では、航空機のタッチ&ゴー訓練が行われており、ダイビングの合間に空を見上げると、真っ青なキャンパスに映える純白の機体を間近に見ることができる



メラルドグリーンの海の下は、優しく繊細な癒しの世界



### ホワイトサンド&サンゴ “王道の沖縄”も宮古島の一面

宮古島といえば”地形”といわれる通り、豪快で迫力ある顔がその肖像だが、女性的で優しい横顔を見せるときも。

地形ポイントから少し離れ、水深の浅い場所へボートで移動すると、紺碧の海は徐々に明るさを増し、やがて船上から見える海はエメラルドグリーンとなる。エントリーすると純白のホワイトサンドが広がり、サンゴの根にデバスズメダイが群れるという、“THE 沖縄”というべき、気持ちのいいシーンが広がっている。

さらに、今回は宮古島西側エリアの地形ポイントメインの撮影だったが、北部には大サンゴ礁「八重干瀬(やびじ)」が広がり、4月からいよいよシーズンイン!

これからの季節は、地形だけでなく、宮古島の優しい一面も見ることができるのだ。

## 地球を潜る! 宮古島



©ocean+ α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link  
http://oceana.ne.jp/series/  
201310\_miyako

関連情報HPへ

# 宮古島の生き物たち



巨大な隠れ根の先端は潮当たりがよく、ギンガメアジが渦巻いている。多い時は1000を超えるトルネードとなる「バナタ」



「ドロップ1番」というポイントには大型のロウニンアジが住みついており大接近！。運が良ければ、気持ちよさそうにクリアリングされているシーンが見られるかも！



宮古島の海は、人気のウミガメとの遭遇率も高い

## ワイドな海でマクロを楽しむ!?

地形のイメージの強い宮古島。「生物が少ない」という声も耳にするが、いやいやそんなことはない。確かに、地形ポイントでは生物は少なく感じるが、それは地形を楽しむためのポイントであるからで、リクエストするダイバーのお目当てもダイナミックな地形だから。実際、「魚はあんまり興味ないんですね」というダイバーにもよく会う。

しかし、サンゴやガレ場など、フィッシュウォッチング目当てで、行くところへ行けば、もちろん生物相は豊富。例えば、宮古島の東海岸「高野エリア」はマクロワールド全開で、梅雨明けごろがトップシーズンだ。

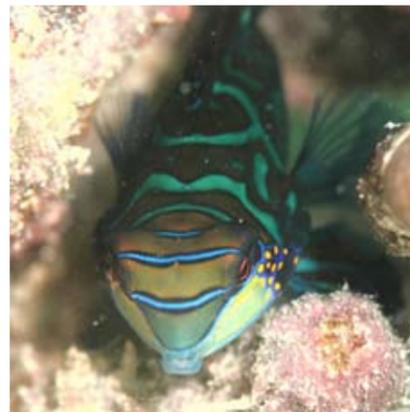
また、リクエストがないだけで、地形ポイント周辺にもマクロポイントは点在。今回、台風の直撃を受けた取材班が、泣く泣く潜った伊良部島の湾内。ガレ場や泥地は生物の宝庫で、怪我の功名とはまさにこのこと。中には、地形ポイントには目もくれず、湾内ポイントだけを3日間リクエストするフォト派ダイバーもいるのだとか。

「宮古島は地形だ！」と主張しつつ、「宮古島は地形だけじゃない！」とも言いたくなる、懐の広い海である。

台風でも会える、ガレ場の人気者



左からサンゴの隙間に潜むキイロサンゴハゼ  
成魚は黒いが、子供は美しいヒレナガスズメダイ  
光を当てると美しい体色をしているシリキスズメダイ  
泥地が好きなシマオリハゼ



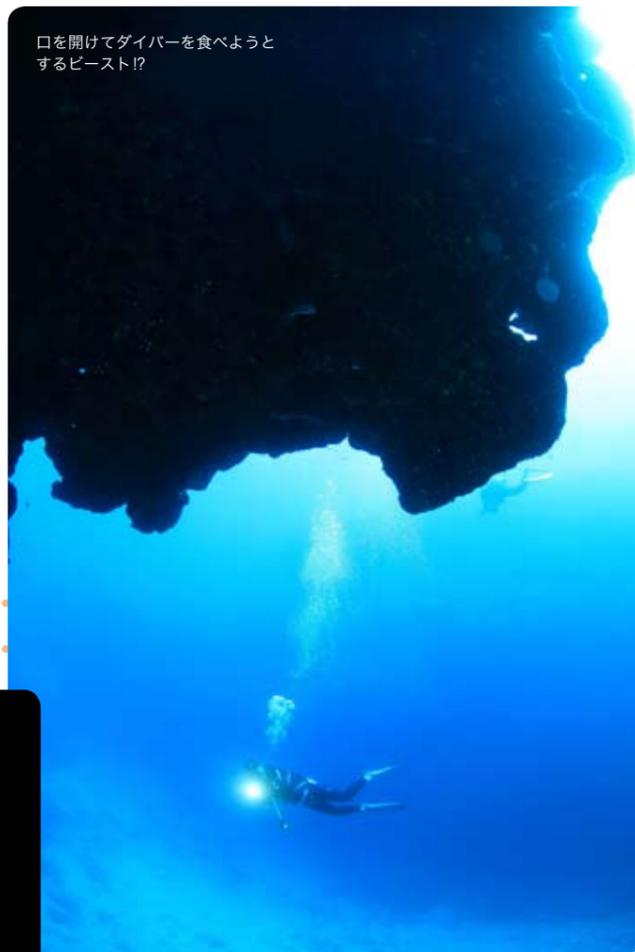
左からサンゴのガレ場が好きな人気のニシキテグリ  
こちらもサンゴの隙間が好きなイチモンジコバンハゼ  
その名の通り、目が赤いのが特徴のアカメハゼ

地球を潜る! 宮古島

**地**形に潜むビースト!?

潜っていると、急に口を開けた野獣が現れ、た、食べられる〜!?

陸上では、何らかの姿形に見える岩は神格化され、観光地になってきたもの。地形ポイントというと、光と青の神秘的な世界観が定番だが、岩のいろんな表情を楽しんでみてはいかがだろうか？ 動物や巨人、人の顔、はたまた心霊写真(?)など、写真に撮って見せ合いっこすると盛り上がること間違いなし。



口を開けてダイバーを食べようとするビースト!



ハート型の穴は結構あるゾ

**光**で遊ぼう!

縦穴に差し込む太陽光+ダイバーは絶好の被写体だが、マスクを光らせるとカッコいい。方法は簡単で、モデルが首をゆっくり上下させ、カメラマンが光る一瞬を狙ってシャッターを切る、というわけだ。

光をいろんな角度から撮って、独創的な写真にチャレンジしよう!



たまにはこんな写真もあり!?(笑)



まずは体が安定するように、着底して試してみよう

**穴**の中の空気で遊ぼう!

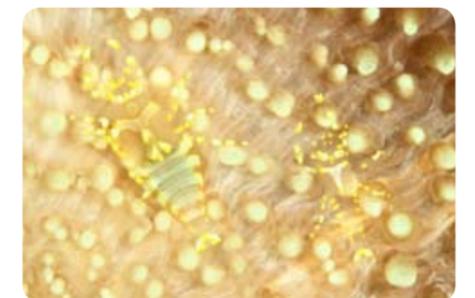
ケーブの中にはダイバーが吐いた泡が溜まっている場所がちらほら。この空気を吸って遊ぶのもおもしろいが(水を飲んで死にそうになったことがあるので注意)、フォト派におススメなのが、よく水面下で撮られる反射写真。ケーブの中で撮るとこんなおもしろい写真になる。



ケーブ内のエアに反射するウミウシ



笑いボヤ、カールおじさんの他にも、ウルトラマンボヤやニコちゃんボヤも



ピキニのパンツを履いたおっぱい美女が!

**海**底は泡盛の天然貯蔵庫

沖縄では泡盛を海底に貯蔵するという習慣があるが、地形ポイントが有名な宮古島はまさに天然の貯蔵庫。「暗くて、水温が一定していて、台風の影響を受けない場所」が貯蔵庫に適した場所なんだとか。海底にボトルキープして、いつか自分で取りに行って飲めば、格別の味であること間違いなし。



海底へのボトルキープは、ダイバーだけの特権

**カ**ールおじさんとトプレス娘を探そう!

隠れファンが多数と噂の「笑いボヤ」。その名の通り、笑っているように見えるホヤが定番だが、ヒゲが生えた「カールおじさん」も人気。また、イソギンチャクモドキカクレエビは背中にトプレスの美女を背負っているので注目!

地球を潜る! **宮古島**

### 宮古島で出会った 珍グルメ(?!）・ベスト3

昔ながらの食と観光地として発展してきたグルメが融合した宮古島では、食事を楽しむのひとつ。変わった味や習慣で気になったのは、まず、沖縄そばやソーキそばの具が麺の下に隠されていること。また、飲み会のシメにステーキというのも驚いた。ラーメンより重い(笑)。

そして、ダイバー的には、ダイビングの合間に食べるランチが驚き！ 名古屋といえばモーニングであるように、宮古島といえばランチ。ダイビングショップではなぜかランチが競うようにメニューが豊富で絶品。いつでも温かい料理が出てくる工夫が嬉しい。なかには素敵なデザートが出てくるお店も(≧▽≦)



深夜のステーキ屋が大繁盛！



池間島には、サザエの乗ったそばもある！



宮古島の名産である紅芋を使ったピザ

### 神様に泥を塗られる!?

沖縄は食や文化も含めてファンが多いが、中でもぶっちぎりにおもしろいのが宮古島の「パートゥ・ブナハ」と呼ばれる、国の重要無形民俗文化財のお祭り。

全身泥まみれの3匹の神様が現れ、人はもちろん、新築の家、パトカーなど、容赦なく泥を塗る奇祭で、例年、10月ごろ開催される(正式発表は直前)。

恐怖!



絶望!



知らない幸せ



笑顔

あきらめ....



★現地からレポート  
[http://oceana.ne.jp/from\\_ocean/44368](http://oceana.ne.jp/from_ocean/44368)



### 宮古島の名高い霊場 「漲水御嶽」(はりみずうたぎ)

神様の降臨する聖なる場所として沖縄の人々に信仰されている御嶽(ウタギ)。宮古島で最も格調が高いとされる漲水御嶽(ハリミズウタギ)は、中心街に近く、男性でも(通常、男性不可侵)観光客でもオープンに祈願することができる。パワースポットとしても知られているので、ぜひ足を運んでみてはいかが!?



シーサーと仲良く並ぶ宮古まもる君

### 宮古島を守る、 まもる君

島のいたるところに立っている、警察官の姿をした不気味……ゴホン、可愛らしい人形が宮古まもる君。宮古島、伊良部島、多良間島で19体あって、島の平和を見守っている。

島のアイドル的存在で、全員に会いに行く観光客もいるんだとか。記念写真は嫌がらないので、皆さんもぜひ2ショットを!

### 最終日の一番人気はシーサー作り

観光地として知られる宮古島。オブショナルツアーも豊富で、最終日に何して遊ぶか悩んじゃう……。そんなあなたにおススメなのが、ダントツで人気の「シーサー作り」。常連の中には「もう3個持っているし…」というツワモノも。

★オススメのハンドメイド体験  
[http://oceana.ne.jp/from\\_ocean/44800](http://oceana.ne.jp/from_ocean/44800)



シーサーと仲良く並ぶ宮古まもる君

### 宮古伝統の お酒の飲み方・オトーリ

宴席で、お酒を回し飲みする宮古島独特のお酒の飲み方だが、ただの一気に飲みではなく、神事でもある重要民俗無形文化財。造詣の深いみやこんちゅから作法や歴史を聞きながら酌み交わすお酒は格別。

地球を潜る! 宮古島

宮古島を愛した職人、  
富夢さんに捧ぐ

宮古島で出会った職人・新島富（富夢）さんが、取材後、急逝した。海岸に打ち上げられた木材や貝や真鍮、クジラの骨や歯で、一点モノのオリジナルアクセサリーや家具を手作りしていた富夢さん。宮古島で“道”を究めんとする本物の職人がいたことをここに永遠に記す。

★■宮古島で一点ものの海の作品を作り続ける職人  
<http://oceana.ne.jp/goods/44306>  
★天国でなく竜宮城に旅立った、宮古島 Moby 工場の富夢さん  
<http://oceana.ne.jp/column/46289>



地球を潜る！**宮古島**